

■岩倉具視 公卿政治家。〈大政奉還〉の立役者として〈明治維新〉を実現、その始動期の政策決定に重要な役割。

いわくらともみ

異国船打払令1825＝ 京都の堀河邸で、権中納言堀河康親の次男に生まれる。

高島砲術・・1834＝9歳：

伏原宣明に学び、その斡旋で、

大塩平八郎乱1837＝12歳：

適塾ホヱン・1838＝13歳：岩倉具慶の嗣養子となる。従五位下、

順天堂始・・1843＝18歳：

阿部正弘首座1845＝20歳：

侍従、右近衛権少将、

万次郎帰国・1852＝27歳：

ペリー来航・1853＝28歳：

開国開港・・1854＝29歳：

\*関白鷹司政通の門に入り、朝廷改革の意見を具申、その引きで、  
孝明天皇の侍従となり、ついで近習となって政治へ接近して行く。

五ヶ国条約・1858＝33歳：

幕府の要求する日米修好通商条約の勅許に88人の公家の列参(集団行動)で反対して老中堀田正睦を窮地に追い込み、公武合体をとらえて和宮降嫁を推進、尊攘派からは久我建通、千種有文、富小路敬直らとともに“四奸”の一人としてねらわれる。

桜田門外変・1860＝35歳：

遣欧使節・・1861＝36歳：

生麦事件・・1862＝37歳：

和宮に従って江戸を下り、將軍徳川家茂自筆の誓詞を獲得して帰京。正四位下、  
左近衛権中将となるも、鹿兒島藩の意向を汲んだ「三事策」をまとめるなどしたため、糾弾されて辞官落飾、法名は友山、京都の岩倉村に潜居した。この幽居中にも朝権の確立をめざした“叢裡鳴虫”や朝廷中心の国権一元化構想を示した“全国合同策”などを草し、廷臣や薩摩藩士らと画策して倒幕運動を進める。

薩長同盟・・1866＝41歳：

大政奉還・・1867＝42歳：

孝明天皇の急死では、毒殺説が流布し、岩倉に疑惑がかけられる。  
\*明治天皇のもとで勅勅が許され、“王政復古”クーデタで参与となり、  
以後、新政府において、議定、副総裁、権大納言、大納言、右大臣など、中枢に位置し、

明治維新・・1868＝43歳：

戊辰戦争終・1869＝44歳：

初の日刊新聞1870＝45歳：

廃藩置県・・1871＝46歳：

特命全権大使として木戸孝允、大久保利通、伊藤博文らとともに米欧に出かけて12ヶ国を回覧。  
アメリカではグラント大統領に謁し、ドイツではビスマルクやモルトケと会見したりした(岩倉使節団)。

明治6年政変 1873＝48歳：

佐賀の乱・・1874＝49歳：

三つの反乱・1876＝51歳：

西南戦争・・1877＝52歳：

\*帰国後のいわゆる征韓論に対しては、大久保、木戸らと反対し、政変の結果、大久保政権が実現。  
赤坂喰違坂で征韓論支持者に襲われる。  
従一位。勲一等旭日大綬章。この年、華族会館長に推任され、以後

第十五銀行(華族銀行)、  
政体確立をめざした岩倉は、外遊、士族反乱、対朝鮮・台湾問題、“漸次国家立憲ノ政体”樹立の詔勅などの過程で、天皇制の制度的確立を念頭におき、自由民権運動とはまっこうから対抗、  
以降相いで意見書を出し、皇室の基礎を固め、その藩屏を強化するかに腐心。

大久保暗殺・1878＝53歳：

琉球処分・・1879＝54歳：

懐刀としての太政官大書記官井上毅を駆使して明治憲法の基本構想をつくり、

明治14年政変1881＝56歳：

岩倉具視没・1883＝58歳：

日本鉄道会社をおこして華族のために尽力するとともに、士族授産にも努力。政変後、政局の主導権を握った伊藤博文をドイツに派遣、明治憲法起草の準備にあたらせたが、  
\*咽頭癌となり、ドイツ人医師ベルツにより、日本人で初めて癌告知を受けて没した。  
岩倉の病状をみとったベルツは、岩倉を評して“全身ただこれ鉄の意志”と述べたといわれる。